

ショートステイ利用中の 排便コントロールは難しい？

蕨施設サービス部 ショートステイ

ショートステイ利用の理由は多々あれど...

ご家族

「自宅で排泄を失敗してしまい処理が大変！」

「できればショートやデイ利用中に出して欲しい...」

といったニーズもあります。ただ、お泊り中は自宅と環境が変わることで、ただでさえ便秘しやすい状態となります。

ショートでもできることはやってみよう！！

必要不可欠なのは

- ・ 排便についての基礎知識と下剤の作用の理解

【例】 水分・運動・腹圧の要素⇒どれが足りないか分析

浸透圧性下剤や刺激性下剤の使い分け⇒センナ茶の調整

職員でもできる坐薬や浣腸の正しいやり方⇒NSに教わる

- ・ ご家族(主治医)との連携

【例】 退居時の報告で、〇日おきに出てる傾向や、便の形状を伝える。

頓服の下剤を積極的に持ち込んでもらう。

ケアでできることはケアで改善。それでもダメならしっか下剤に頼る！！

U・Sさん

80代男性 認知症あり

慢性的に便秘気味で、元々毎夕「ゲーフィス」を服用していた。

①水分が不足しがきなので、積極的にとってもらおう。

②歩き回っており運動量は◎

③毎朝トイレに座ってもらっている

それでも便秘は解消せず、排便ー3日目でゲーフィス1錠追加、ー4日でピコ10滴、浣腸せずなど、何度もご家族と相談しながら下剤の調節を行う。

センナ茶を50ml、100ml、150mlと使用してみると、最初は出ていたが耐性がついて出なくなるなど、試行錯誤を繰り返しー

当初は10日～14日出ないこともあったが、6日目には出るようになった。

今後の課題

- ・ 長期滞在など多く利用する方は試す機会が多いが、**利用間隔が長い方は、ご家族との情報共有が難しい。**
- ・ 退居日の下剤服用は、帰るまでに出なかったら...と気が引けてしまう。**根拠作りの難しさ。**
- ・ ケアでの改善は長期的な側面が多い為、**短期で結果を出す難しさ**もある。

在宅でも、施設であってても、できるだけ自然
な形でお通じが出るように、
普段通りの中に専門職としての
「優しさ」を込めて、
今後も試行錯誤していきます。

ご清聴ありがとうございました。

